



第86回日本皮膚科学会東京支部学術大会
モーニングセミナー5

爪白癬は 治せる時代

— 皮膚科医として完全治癒を目指す —

日時

2022年 **11月20日** (日)
8:00～9:00

会場

京王プラザホテル
第6会場(4F「錦」)
東京都新宿区西新宿2-2-1

本セミナーはライブ配信も実施します。

詳細は「第86回日本皮膚科学会東京支部学術大会ホームページ(<https://jdatokyo86.jp>)」より
ご確認ください。

座長

原田 和俊 先生 (東京医科大学 皮膚科学分野 主任教授)

講演

講演1

Shared decision makingから
Libertarian paternalismへ

大塚 篤司 先生 (近畿大学医学部
皮膚科学教室 主任教授)

講演2

爪白癬は早く確実に治す
～ホスラブコナゾール多機関
共同観察研究を踏まえて～

仲 弥 先生 (仲皮フ科クリニック 院長)



爪白癬は治せる時代 —皮膚科医として完全治癒を目指す—

講演 1

Shared decision makingから Libertarian paternalismへ

大塚 篤司 先生 (近畿大学医学部 皮膚科学教室 主任教授)

医療の現場では、患者と医療従事者の間のコミュニケーションエラーが治療に大きな影響を及ぼす。近年、Shared decision making (SDM)の重要性が指摘されているが、臨床現場で広く実践されているとは言い難い。行動経済学とは心理学と経済学を組み合わせ人々の経済活動を読み解く学問である。

爪白癬の領域においては2018年にホスラブコナゾールが登場し、保険適用がある薬剤は、内服薬3剤、外用薬2剤となった。世界的に見ても、日本は治療選択肢が多い国となっている。治療薬のそれ

ぞれの特性を活かした適切な治療選択が望まれている。

行動経済学では、人々は合理的に判断することは少なく、どの選択肢を選ぶかは、選択肢の提示の仕方によって左右されるとしている。個人の行動・選択の自由を権力が阻害せず、かつより良い結果に誘導する思想のことを指すLibertarian paternalism(自由主義的な父権主義)が注目されている。本講演では、診療現場で役立つコミュニケーション術について紹介したい。

講演 2

爪白癬は早く確実に治す ～ホスラブコナゾール多機関共同観察研究を 踏まえて～

仲 弥 先生 (仲皮フ科クリニック 院長)

実臨床における爪白癬に対するホスラブコナゾール(ネイリン®カプセル)の有効性、安全性および治療継続率を検討するため、爪白癬患者350例を対象に多機関共同後ろ向き研究を行った。その結果、治療継続率は12週後で83.4%と比較的高く、48週後の臨床的治癒率は78.9%、完全治癒率は57.8%であった。臨床的治癒例は多くは36週以降にみられ、臨床的治癒までの期間は41.9週(中央値)であった。多くの症例で臨床的治癒および完全治癒に先立ち真菌学

的治癒が認められたが、48週時には約20%の症例で真菌検査が未施行であった。本研究では第Ⅲ相臨床試験で除外された難治な病型の症例に対しても本薬の高い有効性が認められた。副作用は350例中64例(18.3%)に認められたが、重篤なものはなかった。本研究により実臨床における本薬の有効性と忍容性、および治療継続率が確認された。本薬は爪白癬治療に大きく貢献できる薬剤と思われる。